

# ああグツと

(平成十五年度寮歌)

井口拓君 作歌  
持田翼君 作曲

一

もしも海が酒ならば  
お前は魚になるといふ  
俺は渚の貝になる  
波が来るたび酒を飲む

二

つまみはそうさ俺の脳  
酒にとろけた脳みそさ  
代わりにお前を盃に  
空の頭蓋に酒を注ぐ

三

明日は泥土に墜ちるとも  
今は昇らんはしご酒  
美しい盃を重ねては  
その身月にも届くべし

四

盃もめぐりて今や今  
魍魎魍魎が顔を出す  
ヤマトノオロチ現れる  
大トラ小トラ管を巻く

五

更け行く夜に浮かぶ月  
窓辺にうつる影は今  
何をし何をされるのか  
月は黙って見るばかり

六

中天高く日は昇り  
今日もマグロの大漁旗  
死屍累々の戦場に  
兵どもが夢の跡

七

天の夢から落っこちて  
今日は地を這う宿酔  
「なぜ繰り返す過ちを」  
空しく響くいつもの問い

八

積んでは崩す盃は  
賽の河原の石積みか  
それでもいつか天に着く  
その日を信じ盃を酌む

九

とかく憂の多い世を  
されば払えよ玉帚  
積もる芥の流れては  
自ずと心開くべし

十

たとえ百年生きたとて  
わずかに三万六千日  
されば尽くさんこの盃を  
一日必ず三百杯